

検討の視点

- 2021 年度以降を展望して、地方自治体は次世代自動車の普及に向けて、どのような役割を果たすべきか

- 「京都府」だからこそ「果たせる」「取り組まなければならない」役割は
 - 技術革新に伴うEV等が果たす役割の変化、社会への影響を踏まえた取組とは
 - MaaS（モノからサービスへ）
 - 自動運転技術、IoT、シェアリングの普及
 - エネルギー政策との一体性（電源低炭素化、水素社会構築、VtoX等）
 - 少子高齢化、都市機能の集約化、地方部の過疎化が見込まれる中、EV等が果たす役割は
 - 気象災害が深刻化する中、地域における非常用電源としてのEV等の有効的な活用方法は
 - インフラ（充電器・水素ステーション）の普及課題
 - 充電器の新設、更新をどのように進めて行くか
 - 集合住宅、事業所向けの充電器設置拡大に向けて何が必要か